



教育目標 英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野中学校だより

令和5年10月6日(金) 発行 第6号

『東京オリンピックが残したもの』

校長 田代 雅規

第1回の東京オリンピックの開会式は、1964年10月10日に旧国立競技場で行われ、当日は上空にブルーインパルスが五輪の輪を描き、7万5千人の大観衆に見守られ、参加できずにテレビで観戦した人たちは、NHKと民放合わせて89.9%だったと言われています。日本人の全ての人たちが開会式を観戦・応援していたことになります。しかし、2021年、57年ぶりとなる第2回の夏の東京オリンピックは、新型コロナウイルスの感染拡大による1年延期となり、新国立競技場での開会式は、今までと違う光景が広がっていました。スタジアムの中央に置かれた太陽と富士山をモチーフとした「聖火台」、大量の花火やドローンで作られた巨大なエンブレムなど、派手な演出にもかかわらず、新国立競技場は無観客で観客からの歓声はありませんでした。

新型コロナウイルスの感染の影響が大きかったとはいえ、招致のときに想像した「東京オリンピック」と現実には大きな違いがありました。無観客の会場で試合をすることの寂しさ、観客とともに喜びを分かち合えないむなしさ、東京オリンピックに参加したアスリートたちにとって複雑な思いだったはずです。アスリートたちは、東京オリンピックの後に、参加できたことやメダルを獲得できた喜びとは別に、このような状況の中で本当にスポーツをやっていて良いのかと思いを悩んだと話していました。スポーツ界全体が、そうした問いを突きつけられたオリンピックでした。

スポーツ心理学者の日本大学特任教授：水落先生は、観客がアスリートに与える影響について、「誰かに見られているだけで、人は影響を受けます。実際に人前で発表するとドキドキするのもその影響です。観客がいると興奮し、心拍数も上がるという研究成果もあります。さらにアスリートは、プレーに対するやる気が高まったり、緊張したりもします。そしてこうした効果は、観客との距離や人数によって変化し、より近くで多くの人が見ていれば効果は高まり、見ている人が監督やチームメイト、自分の知り合いだとまた影響も大きくなります。」と話しています。

東京オリンピックから3年が経ちました。新型コロナウイルスも5類になり、全てのスポーツで観客が参加できるようになりました。新国立競技場では、2022年6月に行われたサッカーキンチャレンジカップ日本代表対ブラジル代表の試合では観客動員数6万3千人、10月のラグビーチャレンジカップ日本代表対ニュージーランド代表の試合は、観客動員数6万5千人と多くの人を観戦しました。



スポーツは、実際に試合に参加する人だけでなく、周りで応援している人もスポーツの試合から勇気や希望をもらい、また観客の応援が、スポーツをする選手たちにも喜びを与えます。中野区の連合陸上大会が、第45回大会以来11年ぶりに新国立競技場で9月28日(木)に開催されました。以前は、全校生徒がバスで応援に行っていた時代もありました。今年は、各学校の3年生全員が応援に行き、代表選手以外の40人が、公立学校対抗の40人リレーに参加しました。さらに応援に来た全生徒が、新国立競技場のトラックを1周走りました。各学校東京オリンピックのいずれかの競技の応援に行くことが決まっていたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で行けなかった生徒たちが、新国立競技場のトラックを走ることができた経験は、忘れられないものになったのではないのでしょうか。新国立競技場での連合陸上大会が、これからも中野区の伝統として続いていくことを願っています。

第54回 中野区連合陸上競技大会



9月28日(木)に中野区連合陸上競技大会が、新国立競技場で開催され、中野中は、3年生全員が応援に参加しました。中野中の選手は、夏休み前から連合陸上の練習に取り組み、昨年以上の成績を残しました。総合優勝は、男女ともに緑野中学校で、第2位は南中野中でした。中野中は、男子が総合5位(合計52点)、女子が総合6位(合計40点)でした。

男子 総合5位

女子 総合6位

個人種目結果 入賞選手

【第1位】

◆1500m〔1・2年〕 橋田 創太さん(2年)

◆110mH〔2・3年〕 大谷 日薩人さん(3年)

【第2位】

◆4×100mR〔1年〕 窪田 紗也加さん・安田 紗那さん・山本 はな乃さん・村松 雪菜さん

【第3位】

◆走り高跳び〔共通〕 原口 祐弥さん(2年)

◆走り高跳び〔共通〕 富田 恋さん(3年)

◆100m〔1年〕 窪田 紗也加さん

◆砲丸投げ〔共通〕 西口 滉乃さん(3年)

【第4位】

◆800m〔共通〕 水谷 湊都さん(3年)

◆100mH〔1・2年〕 高山 華映さん(2年)

【第5位】

◆100mH〔1年〕 万 学斗さん

◆4×100mR〔3年〕 九澤 溪翔さん・坂崎 奏人さん・笠井 樹生さん・大谷 日薩人さん

◆走り幅跳び〔共通〕 佐藤 亘さん(3年) ◆砲丸投げ〔共通〕 山田 康太郎さん(3年)

【第6位】

◆4×100mR〔1年〕 三ツ谷 圭右さん・遠藤 悠斗さん・茂木 俊太郎さん・ウナル メヒさん

◆200m〔共通〕 笠井 樹生さん(3年)

◆100m〔3年〕 若林 来実さん

◆100mH〔3年〕 武井 明万寧さん

◆走り幅跳び〔共通〕 小松 舞夢羽さん(3年)

【第7位】

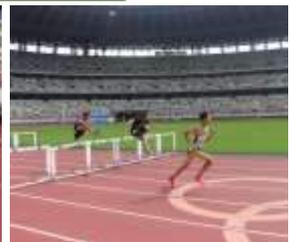
◆100m〔3年〕 九澤 溪翔さん

【第8位】

◆1500m〔共通〕 西郡 まいなさん(3年)

◆4×100mR〔2年〕 渡邊 珠生さん・佐藤 誠さん・西垣 凜久さん・原口 祐弥さん

◆4×100mR〔3年〕 小島 奈緒さん・高橋 美友さん・高時 碧さん・若林 来実さん



中野区の3年生全員のファンラン

エキジビジョンで午後に公立中学校9校で実施された40×100mR〔3年〕の結果は、第1位 緑野中学校、第2位 明和中学校、第3位 中野中学校でした。レースの映像は、右のQRコードで視聴できます。



アスリートによる授業

9月22日(金)の3・4時間目にアスリートによるバレーボール授業を実施しました。講師して、Vリーグの東レ・アローズで活躍された大山未希さんをお招きしました。大山さんは、小学校からバレーを始め、中学校・高校と全国優勝の経験があります。

バレーボールの基本的な技能の指導だけでなく、バレーボールの楽しさや普段の授業では味わえない練習方法を教えていただき、参加した3年生はとても楽しそうに授業を受けていました。

最後は、生徒と一緒にスパイクを打ってくださり、本当に楽しい時間を過ごすことができました。



〔講師紹介〕

大山 未希さん



<プロフィール>

江戸川区出身、成徳学園中学校、下北沢成徳高校
Vリーグ 東レ・アローズ出身

◆主な成績

1996年 全日本バレーボール小学生大会 2年連続優勝
1998年 全国道府県中学校バレーボール大会優勝
2001年 高校3年間で春高・インターハイ 優勝
2008年 Vリーグ 3連覇

体力向上・健康教育講演会



中野中では、生徒たちがスポーツに主体的に取り組み、自分の健康について考えることも目的として、令和5年度・令和6年度の2年間、中野区の学力向上事業指定校、東京都の体力向上推進校として、「体力向上・健康教育の推進」をテーマに全教員で研究に取り組むことになりました。第一段として、前 WBC の監督の栗山秀樹さんに講演もいただきました。具体的な研究は、東京学芸大学の鈴木聡副学長の指導を受けながら、大学院生とも連携しながら、進めていきます。

9月25日(月)には、現在の中学生の体力や健康に関する課題や今後の指導の仕方について、鈴木先生からご指導いただきました。今後は、保健体育科を中心として、体力向上をテーマにした研究授業や家庭科・養護教諭・栄養士で連携して健康に関する様々な取り組みを研究していきます。学力や学習意欲の向上等のすべての基本となるのは、健康な心と体だと考えます。生徒たちが、自分たちで自分の健康や体力の向上について考え、主体的に取り組めるように研究をしていきます。研究成果は、令和6年度に発表する予定です。



ウェリントンからの留学生4名

コロナ禍で中止となっていた中野区の国際交流協会のニューージーランドのウェリントンとの交流授業が今年度から再開されました。9月25日(月)から9月29日(金)の1週間、4名のウェリントンの生徒さんが1年C組に2名、1年D組に2名留学生として来ました。

1・2時間目は、それぞれのクラスに参加して、日本の授業を体験しました。3・4時間目は、国際交流協会から派遣された日本語指導の先生から、別の教室で日本語指導を受けました。5・6時間目は、学

年の取組に参加したり、地域の方に来ていただき、日本の伝統文化の折り紙やコマ回し体験を行ったりしました。最終の金曜日には、それぞれのクラスでお別れ会も実施しました。みんな楽しい思い出が作れたようです。



早稲田大学の留学生との交流授業

中野中の学区域内に早稲田大学の留学生の寮があります。早稲田大学の協力もあり、その寮に入寮している10人の留学生が、中野中の生徒たちに英会話の楽しさを教えるために、ボランティアで交流授業を行ってくれました。各クラス4つのグループに分かれ、それぞれのグループに留学生が入り、母国の文化や特色、中学校時代の思い出等を英語で話し、中学生がそれに対して、質問をする形で行われました。



1時間の授業でしたが、最初は緊張して英語で話せなかった生徒たちも最後の方は英語のコミュニケーションを楽しんでいました。参加した留学生もまた、経験したいと言っていたので、今後もこの授業は継続して実施していく予定です。

◆生徒たちの感想

- 知らない単語だったり、話すのが速かったりして難しかったけど、分かるところから想像して、何が言いたいのか考えて話すことができた。会話を続けるのは難しかったけど、簡単な言葉でも返答することができて良かった。
- ちょっと戸惑ってしまって、スラスラと英語が出てこなかったり、聞き取れなかったりした部分もあったけれど、ジェスチャーや周りの友達のフォローもあり、何とか会話が成立した。言語が完全に理解できていなくても、会話はできると感じました。
- 実際に話してみると、自分が聞いたことをすぐに英語にするのは難しかった。けれど、留学生のみなさんの言っていたことは結構正確に聞き取ることができたと思う、質問にも答えられていたと思う。11月にあるイングリッシュ・キャンプのためにももっと質問の仕方や答え方を勉強しなければと思った。
- 英語で話すことは慣れなくて、片言みたいになってしまいました。英語は、普段から使わないといざと言う時に何もできないのだと思いました。一緒に話した留学生さんから「英語を話せばいろいろな国に行ける。そして、いろいろな人と会ってほしい。」と言われました。英語を勉強して何の意味があるのかと思っていましたが、こんな素敵なことがあるのだと感じました。